

NO!リニア

No. 31

2010年10月1日

JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

第8回中央新幹線小委員会開催！

リニア中央新幹線は国土形成計画の 抜本的見直しとセットでなければ意味がない！

9月29日、国土交通省交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会は、8回目となる中央新幹線小委員会を開催しました。私たちは、リニア中央新幹線の客観的動向を把握するため、今回も傍聴として参加しました。今回の審議では、①有識者ヒアリング、②パブリックコメント結果報告、③トンネル技術の考察の三つの議題で審議が行われました。

有識者ヒアリングでは、伊藤滋早稲田大学特命教授から「2030年の日本と中央新幹線」というテーマで報告がされ、リニア中央新幹線が実現することで、首都圏・関西圏・中部圏及び地方都市の国土形成計画を戦略的に見直すことが出来ると提言しました。しかし、逆に考えれば、現在の国土形成、都市計画を抜本的に見直さないかぎり、リニア中央新幹線は実現できないし意味をなさないことも明らかになりました。

パブリックコメント報告では、個人・団体などから総数793件の意見が寄せられたことが報告され、その中で、中央新幹線を推進すべきという意見は170件あり、それに対し反対意見は12件に止まったことが明らかになりました。私たちの闘いがまだまだ弱いことが数字に表れました。多くの知識人、議員などへ問題点を広める闘いが重要な課題となることが明らかになりました。

トンネル技術の考察では、鉄道・運輸機構高津理事より、北陸新幹線北アルプスルートと中央新幹線南アルプスルートを比較し、施工技術の進歩、地形地質上の違いなどが明らかにされ、昭和50年段階では北アルプストンネルは断念したが、今回の南アルプストンネルは可能であるという報告がなされました。しかし、南アルプス付近に集中する構造線の問題や多くの困難が予想されるのではという懸念に関しては、昭和50年当時より施工技術の進歩により早期予測が可能であるということが明らかにされただけでした。技術は進歩した、地質形状は北アルプスより良好、しかし、やってみなければ分からないというこでは大変な事態です。

今回は以上のような内容で審議が行われました。次回は各委員の意見集約、さらに必要な調査などを審議することが確認されました。私たちも引き続き小委員会の審議に注目しつつ、リニア中央新幹線構想反対のための闘いを強化していくこととします。